

農家の皆さんへ

飼料作物の放射性物質対策

1 プラウ耕（反転耕）・ロータリー耕を丁寧に行う。

畜産酪農研究センターにおいて、放射性物質に汚染された飼料畑で、プラウ耕・ロータリー耕を行い、その後に飼料用トウモロコシを栽培し、放射性セシウムの吸収抑制効果を確認する試験を実施しました。

試験の結果は図1のとおりで、放射性セシウム濃度は、ロータリー耕32%、プラウ耕により45%低減しました。

この結果から、飼料作物への吸収抑制対策として、プラウ耕、ロータリー耕は有効であることが確認できました。

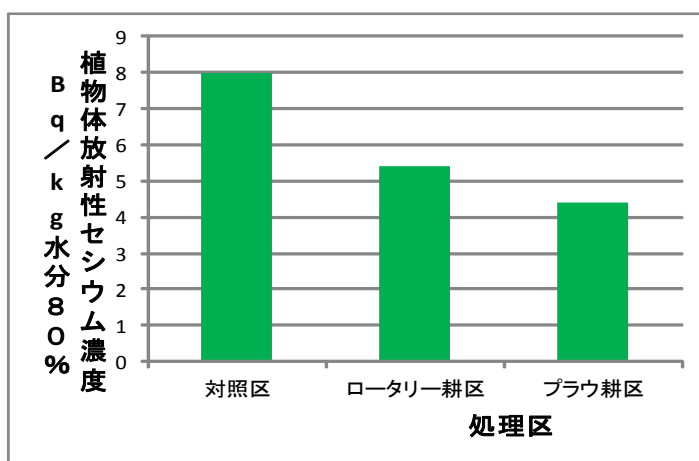


図1 反転耕による試験結果

* 対照区：原発事故後に耕起していないほ場

※ 耕起方法別による除染効果

各耕起方法の違いによる除染効果を調査しました。

表1 各耕起方法による除染効果調査結果（当該ほ場の地上1mの空間線量）

耕起方法	実施前 ($\mu\text{SV/h}$)	実施後 ($\mu\text{SV/h}$)	低減率 (%)
プラウ+ディスクハロー	1.00	0.24	76
ロータリー	1.04	0.42	60
ディスクハロー	1.00	0.69	32

調査の結果、プラウ耕（反転耕）、ロータリー耕（耕起）、ディスクハロー一耕（簡易更新）の順で、除染効果（低減率）が高いことがわかりました。

2 加里肥料を適正に施用する。

加里肥料を飼料用トウモロコシ栽培時に施用し、吸収抑制の効果を確認する試験を実施しました。

- ①無施用区：加里(K)無施用
- ②慣行区：10kg/10a (K₂O)
- ③加里区：28kg/10a (K₂O)

試験の結果は図2のとおりで、放射性セシウム濃度は慣行区(10kg/10a(K₂O))で32%、加里区(28kg/10a(K₂O))で47%低減しました。

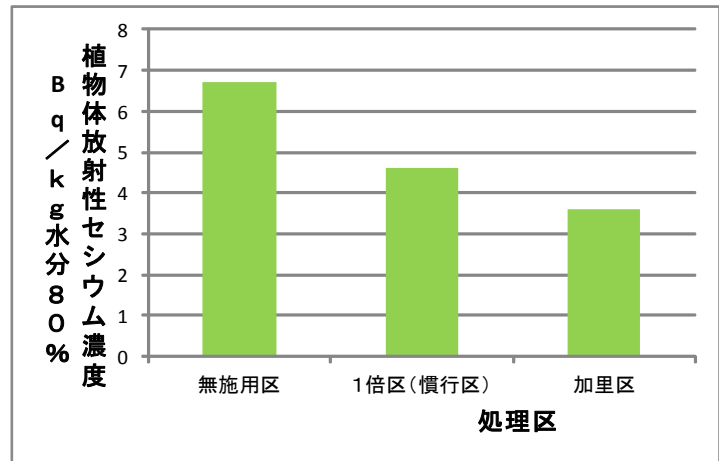


図2 加里施用による試験結果

この結果などから、飼料作物への放射性セシウムの吸収抑制対策として、加里の施用は有効であることが確認できました。

飼料畑により、土壌中の加里含量は様々ですので、土壌診断に基づいた適正な加里施用を行いましょう。

3 収穫作業時の土壌混入に注意する。

- (1) モア、モアコンディショナー等収穫機械の刈取高さを通常より高く設定しましょう。
- (2) テッダー、レーキ、ベアラ等牧草の反転・集草・収穫機械のピックアップ(作業爪)が地面と接触しない高さに設定しましょう。
- (3) 低速で作業を行い、土壌の混入や土埃の巻き上げを最小限にしましょう。

問合せ先 栃木県農政部畜産振興課 TEL 028-623-2344

栃木県畜産酪農研究センター TEL 0287-36-0230